

平成27年（2015年）6月1日発行

杉戸町と包括的連携協定を締結

魅力ある地域作りを目指す



協定書に署名を行った波多野学長（前列左）と古谷町長（同右）

杉戸町は日光街道の宿場町として栄えてきた。2016年には「開宿400年」を迎えるため、これまで杉戸宿・まち歩きブックの製作や杉戸宿案内人ボランティアの育成、地元町民が継承してきた伝統的な料理の再現などの事業を進めてきた。これらの事業に本学の波多野純学長が協力してきたのをきき、杉戸町との更なる発展へ「包括的連携に関する協定」を締結することにした。本学の自治体との提携は宮代町、春日部市に続き3つめとなる。調印式は本学で行われ、波多野純学長と古谷松雄町長がそれぞれ協定書に署名し、協定が締結された。

本学と杉戸町（埼玉県北葛飾郡）は4月16日（木）、魅力ある地域づくりに向けた包括的な連携協定を結んだ。杉戸町は日光街道の宿場町として栄えてきた。2016年には「開宿400年」を迎えるため、これまで杉戸宿・まち歩きブックの製作や杉戸宿案内人ボランティアの育成、地元町民が継承してきた伝統的な料理の再現などの事業を進めてきた。これらの事業に本学の波多野純学長が協力してきたのをきき、杉戸町との更なる発展へ「包括的連携に関する協定」を締結することにした。本学の自治体との提携は宮代町、春日部市に続き3つめとなる。調印式は本学で行われ、波多野純学長と古谷松雄町長がそれぞれ協定書に署名し、協定が締結された。

杉戸宿開宿400年プロジェクト 人的・知的資源活用などで協力

大川陽康奨学金、学業奨励奨学金 認定授与式

大川陽康奨学金および学業奨励奨学金受給対象者の認定証授与式が4月8日（水）、情報工学科棟5階会議室において執り行われた。

授与式には、波多野学長をはじめ、竹内学生支援部長、山地学生支援部長補佐、吉見学生支援課主事、鈴木学生支援課長及び本奨学金受給対象学生136名が出席した。本年度の受給者は、大川陽康奨学金が25名、学業奨励奨学金のエクセレント・スチューデント（ES）が36名、リマーカー・スチューデント



学業奨励金受給者（建築デザイン学群）と波多野学長

（RS）が76名となった。認定式は18時35分より開始され、波多野学長から奨学金受給学生に対し、賞賛と今後の活躍への言葉が贈られた。また竹内学生支援部長、山地学生支援部長補佐からも更なる飛躍を期待する旨の挨拶があった後、各人の認定証が封入されたアクリル盾が贈呈された。式後は、高校訪問などで本奨学金広報のために活用されている学長と受給学生たちの学群ごとの集合ポスター撮影も行われ、終始和やかな雰囲気であった。



利根川強化堤防の森づくり事業の参加学生

環境マネジメント活動の推進 ISO14年度環境教育、学生環境活動との連携を強化

本学に於けるISO活動の対象期間は、これまで10月～9月であったが、2年度に跨るため本年4月より、4月～3月とした。これにより、法律で報告が求められる期間との整合性が図られた結果、データ管理が日常業務と一元化できることになり、より効率的な活動ができるようになった。本文では、ISO14年度（平成25年10～平成27年3月）1・5年間の活動報告を行う。

環境教育のさらなる充実
「持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成」する為、環境教育検討部会を中心に、環境教育・研究内容を毎

年度見直し成果を上げていく。また、環境教育シンポジウムでは、ものづくり環境学科・大澤正久教授による講演「最近の光エレクトロニクスから人工光合成まで」を行い、タイムリーな話題を発信した。

学生の環境改善活動との積極的連携
学生環境推進委員会が14年度（平成25年10～平成27年3月）1・5年間の活動報告を行う。

省エネルギー・省資源活動
太陽光発電（580結）や関連環境設備は、エネルギー使用管理部会を中心に適正運用や高効

第11回日本工業大学卒業教職員の集い

全国の中学校・高校等に在職する本学卒業教職員約1,300名と大学との連携を深め、相互の発展を図ることを目的に毎年開催している。今回は11回目を迎え、工友会との共催が実現した。関係者の皆様は奮ってご参加のうえ、交流を深めていただきたい。

■日時 6月13日（土）受付13時 開会13時30分
■会場 日本工業大学 学友会館
■主な内容 ◎教職員研究発表：埼玉県立浦和工業高等学校教諭・村田憲一郎氏／埼玉県杉戸町立杉戸中学校教頭・田口弘氏
◎講演：桑原清四郎氏 演題「最新の脳科学の知見に学ぶこと」
◎懇親会（参加費1,000円）

宮代町と協働し「子ども大学みやしろ」を開催。小学生を対象に「ごみのリサイクル」について講義を行った。また、毎年4月に行う「リサイクルショップ」は、同委員会が卒業生から家具・家電を回収し整備し、新生入生に無償で配達する活動を継続した。さらに、平成26年5月から実施の「利根川強化堤防の森づくり事業」は、県・地域連携ボランティアとして、今後も継続する。

省エネルギー・省資源活動
太陽光発電（580結）や関連環境設備は、エネルギー使用管理部会を中心に適正運用や高効

入試奨学金は、1年次の学費の減免として年額20万円を給付。一般入試、センター利用入試、専門高校入試（S工業科）および（B工業科）および（B工業科）の合格者のうち、入試の成績が優秀で、学業の伸びが期待される方に給付。2015年度は270名の方が認められた。

◆入試奨学金の給付
入試奨学金は、1年次の学費の減免として年額20万円を給付。一般入試、センター利用入試、専門高校入試（S工業科）および（B工業科）の合格者のうち、入試の成績が優秀で、学業の伸びが期待される方に給付。2015年度は270名の方が認められた。

◆本学以外の会場を設定
左記の都市に試験場を設け、多くの受験生へ本学への受験機会を設ける。
○一般入試AⅡ仙台、郡山、水戸、宇都宮、高崎、千葉、柏、東京（一般入試Bでも設定）、横浜、新潟、富山、長野、静岡
○専門高校入試（B工業科）および一般推薦入試（公募制）Ⅱ東京

◆大学案内の刊行
本学の特色をわかりやすく紹介する「2016大学案内」、女子の受験生向けに本学の特色をコンパクトに紹介する「ブックレット」を刊行。ご希望の方は、教務部入試室（0480-337676）まで。

2016年度入試情報

2016年度入試がいよいよスタートした。入試の概要や奨学金制度は左記のとおり（詳細は受験ガイド、各募集要項を参照）。

◆特別奨学生入試
成績優秀で向学心あふれる方を幅広く受け入れるべく、年2回実施。1年次の授業料の全額（98万円）を免除する方がある。それらをきちんと資産にすべきた」と協力する。そして4年前の東日本大震災の教訓を踏まえて「学内は広域避難場所として有効。いざという時のためにも本学生のマンパワーを活用して欲しい」と話した。今後の展開が期待できる協定といえよう。

14名、半額（49万円）を免除する方28名を募集する。2015年度は47名の方が認められた（第1期・第2期の合計）。

9月に申込む第1期は、評定平均4・3以上の卒業見込みで単願の方を対象。筆記試験を重視する第2期は、入学手続締切日を遅めに設定し、国公立大学等と併願受験を検討する方にも利用しやすい。

◆専門高校入試（S工業科）
出願時の評定平均値が4・3以上の、工業科卒業見込みの方を対象。入学手続締切日を年明けに設定し、国公立大学等と併願受験を検討する方も応募できる。成績・人物が優秀な方は、後述する入試奨学金（20万円）を給付。2015年度は35名の方が認められた。

オープンキャンパス

オープンキャンパス

6/7(日) 7/18(土) 8/1(土)・2(日)

8/22(土) 9/13(日)

授業体験型オープンキャンパス(WCV)

7/11(土) 10/12(月・祝)

オープンキャンパス・進学相談会

11/21(土)

お問合わせ・お申込み先：教務部入試室

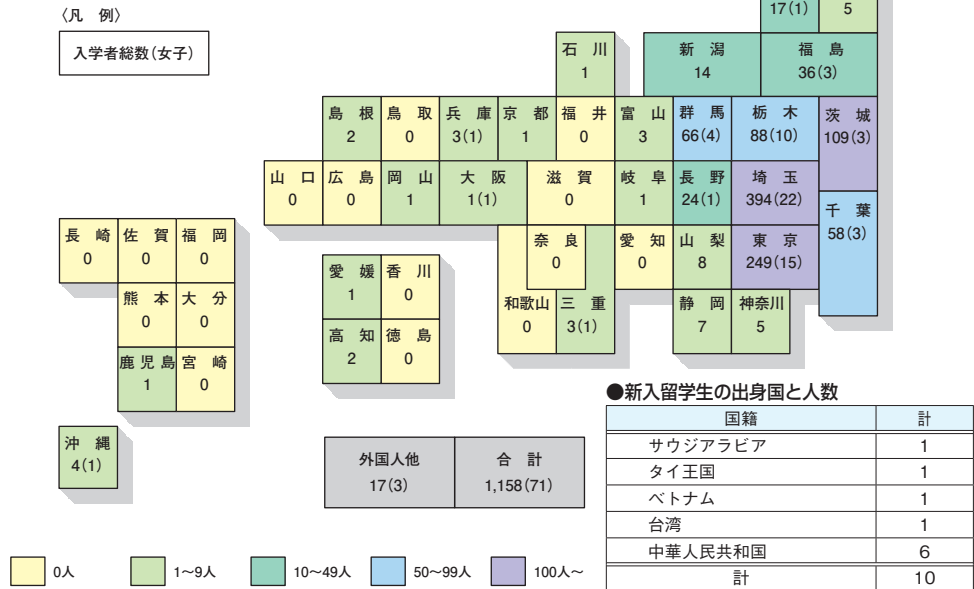
☎0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

詳細はWEBサイトでご確認ください

新入生の出身地マップ

31都道府県から1,158名が入学

本学工学部の平成27年度都道府県別入学者数がまとまった。総入学者数は1,158名（入学定員は1,000名）。うち女子学生は71名である。都道府県別入学者数は、昨年に続き埼玉がトップで394名。次いで東京が249名、茨城109名、栃木88名、群馬66名がベスト5である。入学者は、全国31都道府県から集まっている。



専門職大学院入学者の平均像

専門職大学院だより

大学院技術経営研究科・教授 近江 正幸

専門職大学院は平成17年に学園創立の地である神田で産声をあげた。今年が創立10周年に当たり、5月23日（土）には記念するシンポジウムとホームカミングデーが開催された。

4月に入学した24名は第11期生になり、最年少が35歳、最年長が72歳。平均年齢は45歳である。第1期生から第11期生の平均が約42歳なので、今年はやや平均年齢が少しであるが上昇した。

一般の大学院あるいは

大学とは明らかに異なる37歳という年齢差について、知識・経験の差による様々な格差、あるいはジェネレーションによるギャップが生じ、講義に関する理解度、そして授業における議論が噛み合わないのではないかと危惧を感じる外部の方も多いと思う。しかしこのようなギャップを私は授業で感じることはない。この意見は私だけでなく他の先生方に聞いても同様である。高齢の院生も若手の院生も、また会社

を営んでいる社長から中間管理職である部長・課長として平社員も授業では平等に、また相手を尊重し堂々と議論を戦わせる。皆が忙しい時間を調整し、経済的な問題を乗り越え、仕事上の重責を調整しながら大学院に通学しているという共通事項に根差した連帯が毎年すぐに生まれる。

また今年の入学者の大学院に入学する前の最終学歴は、大学・大学院卒業は54%、残りの46%は短大・高専あるいは専門

学校、高校卒の方々の職務経験、知識、人格を入学試験前に実施する事前審査で高く評価され、受験資格を得たうえで試験にパスされ入学した方々である。本学では入学資格として学歴だけでなく、実務経験を重視しており、事前審査を経て入学した院生は入学当初こそ大学院の授業に戸惑いながらも例外なく向上心が旺盛で、日々熱心に勉強に取り組み、修了時には学歴の差は感じさせない。

学歴から理系と文系に分けると理系は42%、文系58%である。また所属する組織の業種を調べると製造業54%、IT関係13%、サービス業29%

学生自治会 新入生歓迎イベント

毎年春には、学生自治会主催の新入生歓迎イベントが開催される。

本年度も4月3日（金）の入学式終了後には学生自治会主催のクラブ勧誘が行われ、新入生たちは、先輩たちが配布して

いるクラブ紹介のビラを興味深そうに読んでいた。またその場で、先輩からクラブ活動の内容の説明を受け、仮入部をしている学生達も見受けられた。

4月11日（土）には、毎年恒例の大学祭実行委員会主催の第48回体育祭が開催され、多くの新入生が参加した。今回のテーマは「尽力」。目的の実現のために力を尽くすという意味の今回のテーマには、体育祭参加者全てが競技に対して力を尽くすと同時に、お互いの親交を深める契機にしたい、という主催者側の強い思いが込められている。

5月23日（土）には陸上競技場において体育祭実行委員会主催の第48回体育祭が開催され、多くの新入生が参加した。今回のテーマは「尽力」。目的の実現のために力を尽くすという意味の今回のテーマには、体育祭参加者全てが競技に対して力を尽くすと同時に、お互いの親交を深める契機にしたい、という主催者側の強い思いが込められている。

入学式後には各クラブが勧誘を行った



体育祭の競技「コベルニクスの球を運べ！」

毎年恒例の大学祭実行委員会主催の第48回体育祭が開催され、多くの新入生が参加した。今回のテーマは「尽力」。目的の実現のために力を尽くすという意味の今回のテーマには、体育祭参加者全てが競技に対して力を尽くすと同時に、お互いの親交を深める契機にしたい、という主催者側の強い思いが込められている。

今後秋の大学祭などのイベントやクラブ活動を通じて、新入生が積極的に他者との関わり合いを持ち、より多くの良い友人ができることを願ってやまない。



入学式後には各クラブが勧誘を行った

高校生対象のコンテストを実施します

第7回 3D-CADプロダクトデザインコンテスト

「未来のロボット」

本コンテストは3次元CADを用いてデザインし、ものづくりの最先端技術を学ぶことができる。高校生なら誰でも参加でき、募集作品はテーマ部門『未来のロボット』、自由デザイン部門、CGアイデア部門である。希望者は8月22日（土）迄に、本学ホームページあるいは本コンテスト事務局（nagasaka@nit.ac.jp）まで。

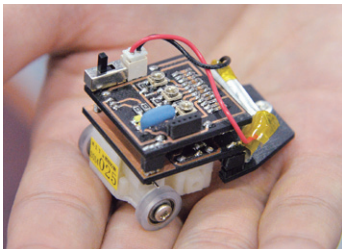


昨年の入賞作品

第9回 マイクロロボコン高校生大会

1インチ角のロボットで競う

本コンテストは、約1インチ角の小さな本体に必要な機能を内蔵したロボットが自律的にコースを走行し、タイムを競うものである。第9回大会は9月12日（土）に本学体育館で開催する。ノビス部門を設けて初心者への参加も歓迎している。



小さな車体にアイデアと技術を凝縮

大会についてや入門機の製作講習会、基板請求など詳細はホームページにて。http://ise.nit.ac.jp/mrc.html

第29回 建築設計競技

「つながる家」

第29回目となる、建築を学ぶ高校生を対象とした日本工業大学建築設計競技。今年のテーマは「つながる家」。審査には建築家の赤松佳珠子氏を迎え、本学建築学科武田光史教授と生活環境デザイン学科足立真教授の3氏で行われる。締切は8月27日（木）。審査結果は9月上旬ホームページ上に発表。http://www3.nit.ac.jp/kenchiku



入賞作品はLCセンターに展示



機械工学科



情報工学科



建築学科

学科	宿泊場所	主な実施内容
機械工学科	福島／那須甲子少年自然の家	綱引大会、室内キャンプファイヤー、ポスター制作
ものづくり環境学科	埼玉／本学合宿所	屋外炊飯、スポーツイベント
創造システム工学科	茨城／さしま少年自然の家	学内施設見学、屋外炊飯、スポーツイベント
電気電子工学科	福島／磐梯青少年交流の家	大内宿散策
情報工学科	栃木／鬼怒川パークホテルズ	ストローを用いたタワー制作コンテスト
建築学科	福島／磐梯青少年交流の家	那須ハートランド見学、大内宿散策
生活環境デザイン学科	千葉／THE FARM	佐原のまち歩き、就労継続支援施設見学

学生支援部長賞

3月12日（木）、学生支援部長室にて、平成26年度の学生支援部長賞の表彰式が行われた。今年の表彰は、団体2組（機械工学科「Pulp fiction」、アー

チェリー部）と個人4名（小林達也君、清水裕孝君、雨野暉君、松永直樹君）が受賞対象となり、学生支援部長より表彰状と賞品が授与された。



受賞者一覧

氏名又は団体名	学科	申請内容
小林 達也	情報工学科	応用情報技術者試験合格
清水 裕孝	情報工学科	応用情報技術者試験合格
機械工学科 片身正樹、森漣平、小林竜 「Pulp fiction」	機械工学科	東京デザイナーズウィーク 2014 ASIA AWARDS学校作品展学生賞入賞
雨野 暉	創造システム 工学科	第60回東西学生弓道選抜対抗試合出場東軍優勝 第46回関東学生弓道選手権大会個人3位 第47回東日本理工系大学体操競技選手権大会 個人総合1位 第68回全日本学生体操競技選手権大会個人出場 第53回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦7位
松永 直樹	機械工学科	
アーチェリー部		



無人探査車両の説明を行う石川助教

機械工学科の石川研究室は、特殊災害現場で消防隊員の安全を確保する「突入撤退判断システム」を東京消防庁、杏林大学と共同開発を進めている。3月4日（水）には本学屋外実験場において実演を行った。

突入判断システムは、放射線量計やガスセンサーなどの環境センサを搭載した水陸両用無人探査車を災害現場に投入し、隊員の突入可否や突入最

撤退判断システムは、ウェアラブルセンサー群により得られる隊員の体調や、周辺の放射線量等の情報の分析結果を現場指揮所に設置されたPCへ送信し隊員の位置や状況を地図上に一括して表示する。危険と判断された場合に

災害現場の突入撤退判断システム 東京消防庁、杏林大と共同開発

は、隊員と指揮所の双方に警告が表示され、撤退判断を促すシステムである。

本システムの開発は総務省・消防庁の「消防防

災科学技術研究推進制

水族館屋外施設に採用された 遊具プランが一般公開

生活環境デザイン学科の金野千恵助教と同研究室の学生が提案した遊具のプランが昨年7月、大分マリンパレス水族館「うみたまご」の新施設の公募においてグランプリを獲得した。作品は金野助教や構造設計家による実施設計を経て製作・設置され、4月18日（土）から、新施設「あそびーち」として一般公開されている。

「動物とアートで遊ぶ」がコンセプトのこの施設は、天然のサンゴ砂が敷き詰められたビーチを歩いてイルカやペンギンと触れ合うことができる。ビーチの周囲に設置された、海の動物をイメージした遊べるアート「うみさんぽ」が、このグランプリ受賞作品である。

子供から大人までがチョークで落書きを楽しむ貝殻型のドーム「シェリー・キャンパス」、螺旋状のイワシの群れを連



シェリー・キャンパス



イワシ玉・スライダー



サンゴ・めいろ

を通過して、実施設計に携わった。

4月4日（土）、第3回目となる「女子学生交流会」が開催された。この交流会は、在籍人数が少ない女子学生が、男子

女子学生
交流会



楽しく食事をとりながら、新入生同士や先輩と交流

への激励の言葉が贈られた。その後は、学群・学科ごとに分かれ、先輩の司会進行により昼食を取りながらそれぞれの自己紹介が行われた。入学して間もない新入生は、初め緊張した面持ちであっ

5月24日（日）、大学学生会館にて後援会定期総会が開催された。

後援会定期総会を開催

号議案「平成27年度事業計画」、第4号議案「平成27年度予算」、第5号議案「理事・監事の銓衡

総務 熱田俊美（京都）
財務 大原史子（鹿児島）
財務 尾崎雄一（富山）
財務 宮坂幸治（長野）
監事 市川道教（東京）
監事 廣瀬 修（神奈川）

総会終了後には、学内見学があり、キャンパス内の主な施設設備を職員が案内した。その後、教職員らと共に懇親会も行われ、互いに懇親を深めた。

就職支援情報

就職活動スケジュールが大幅に短縮され、短期決戦へ。

来春に卒業・修了する学生達の就職活動スケジュールが大きく変化した。従前は大学3年生の12月に解禁されていた会社説明会が3ヶ月遅れて春休み中の3月からとなり、面接等の選考の開始が4月から8月に変更になった。この結果、選考期間は正式な内定日となる10月1日までの2ヶ月間となり、昨年までの6ヶ月から大幅に短縮される。

月に181社の人事担当者

で聞き入っていた。12月・2月と合わせると8割程度の学生が参加している。

発を担う人材として理工系の採用意欲が高い。昨年末から本格的に動き出している学生の中には、すでに数社から内々定を得ている学生もいる。特に建設業（建築工事業、設備業）やIT関連企業の採用意欲は非常に高い。理工系学生は秋以降になると卒業研究のまとめに入るために就職活動との両立が難しくなる、早い段階での積極的な活動が



学内合同企業説明会

在学生の方へのお知らせ

「埼玉発世界行き」奨学生募集

埼玉県が海外留学する学生を募集しています。

	学位取得 コース	協定・認定留学 コース	理系短期留学 コース
募集人員	15名	200名	20名
給付額（上限）	100万円/年	20万円	10万円
応募締切	6月3日	6月9日	6月9日

この奨学金は「埼玉県グローバル人材育成基金」により運営されるものです。応募や採用には条件があります。詳細は埼玉県のWEBサイトをご覧ください。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/global/globalscholarship.html>

北埼玉の水塚」

水塚（みづか）とは、「水害に対する備えとして設けられた、周りよりも土地が高い避難用施設」のことです。埼玉県北・東部の15市町で構成される「東部地区文化財担当者会」の調査では、区

宮代町
だよ
195号

域内に1220基を超える水塚を確認することができ、町域でも16基の水塚を確認しています。水塚の分布や歴史には、災害対策へのヒントが多くあります。皆さんのお越しを待ちしています。

【期間】7月12日まで（毎週月曜日休館）

【場所・問合せ】宮代町郷土資料館 048-034-8888